

# 月の 夢日記



試し読み8P  
+使用イラストの  
サンプルです。

月の  
夢日記



試し読み8P  
+使用イラストの  
サンプルです。

ねむると、いつもだれかの夢に入ってしまう  
「月」という少女がいました。

近頃は、だれかの夢に入っても  
悪夢ばかりで、毎晩こわい思いをしていました。  
夢の中では、自分はどうすることもできないのです。

その夢を見ている人と同じく、夢でおびえて、  
こわい思いをするだけなのです。

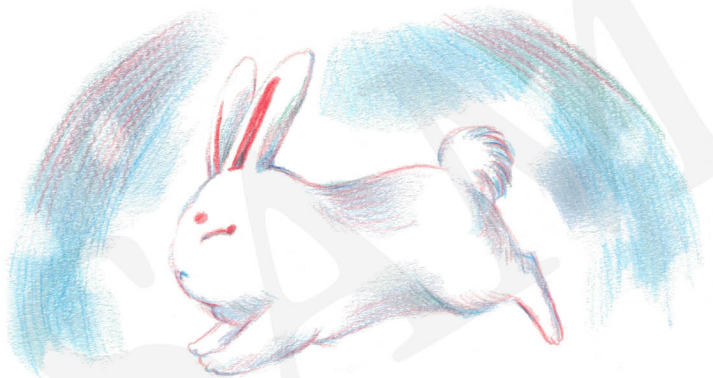
こんな事はだれにも相談ができず、眠るのが  
こわくて、元気がなくなっていました。



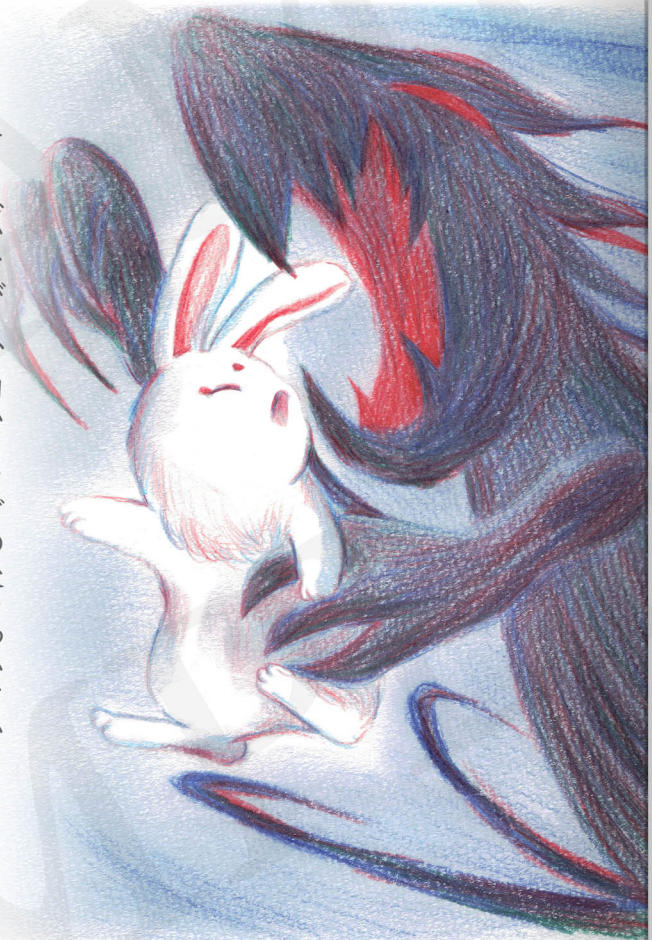
そんなある日の晩、ゆううつに  
なりながら眠りにつくと、  
いつもとちがう夢を見ました。

白いうさぎの夢でした。

「私がついていっても、  
気付かないだろうな。  
いつもそうなもの。」



そう思いながら、白いうさぎの後をついていこうと  
したとき、黒い影のようなものが出てきて、  
白いうさぎに飛びかかりました。  
白いうさぎはすぐに、つかまってしまいます。



その様子を  
見ていられなく  
なり、気付いたら  
ひっしになって  
影に岩をぶつけて  
おいはらって  
いました。



自分がどう動こうと、今まで何もできなかったのに、  
助ける事ができてびっくり。

「たすかりました。お礼はかならずします。」

うさぎが  
しゃべった！

夢の中でおどろいた  
瞬間には、  
夢から覚めて  
しまっていました。



しゃらん しゃらん

次の日の晩、  
そろそろ寝ようかな  
そう思っていた頃、  
家の入口の向こうから  
鈴のような音が  
聞こえてきました。



なんだろうと思い、戸を開けてみると  
そこには、あの夢で見た白いうさぎがいました。

「このあいだはどうも  
ありがとうございました。  
これはお礼です。  
うけとってください。」



